

平成 30 年度 第 2 回古賀市文化財保護審議会 会議録

開催日時 平成 31 年 1 月 28 日 (月) 10 時から 11 時 30 分まで
開催場所 リーパスプラザこが歴史資料館研修室

出席委員 西谷正会長 桑田和明副会長 横田義章委員 森弘子委員 今橋省三委員
出席者 青谷昇教育部長
事務局 : 杉村幸一歴史資料館館長 川原幸恵文化振興係長
井英明文化財係長 甲斐孝司業務主査 大江道子主事

傍聴者 なし

1. 開会の言葉

2. 議事

西谷会長 本日の議事は谷山の盆綱とその他の 2 件ということだが、まず、谷山の盆綱、指定無形文化財について、昨年 6 月の審議で調査をして、変更後の書類の修正内容を踏まえて、改めて継続審議したい。まず、事務局から説明を願う。

井係長 (資料 1～5 ページに沿って諮問内容の変更及び調査結果について説明。)

森委員 太鼓は最初のお清めだけで、綱を引いているときに調子をとるといったことはないか。

井係長 そのようだ。今年の区長さんは太鼓を持っていないので、ひょっとすると今年は宮司さんの太鼓で始めたのかもしれない。

森委員 宮司さんはどこかの神社の宮司さんなのか。神社庁にいたと書いてあるが。

井係長 古賀市内の神社で常駐している宮司さんがいるのは五所八幡宮だけで、谷山八幡宮の宮司さんは常駐ではない。古賀市内の神社は、このお二方で分担して、いろんな神事をされる方になる。

西谷会長 ただいま、昨年度実施された盆綱の調査結果とまとめ、それを踏まえた諮問内容の変更について説明して頂いたが、この調査結果については既に質問等が出ていたが、改めて調査内容について質問等があれば質問を。

森委員 前回見た時よりも子どもの数がとても増えているようであった。2 頁の上から 4 行目、「綱引きは地元消防団と子どもたちに分かれ」とあるが、まだ「子どもたち」とあるのはこの中に加勢の大人がいるということでしょうか。

井係長 はい。

森委員 消防団は何人ぐらいいるのか。青年団もあるのか。

井係長 いえ、消防団はあるが、青年団はない。

甲斐 消防団は、谷山区の場合は、おそらく 20 人以下位の人数で活動していると思われる。

井係長 昭和 10 年頃まではというところで青年団。青年団と消防団は違う組織だが、昔は青年団があったのでここは青年団という表記をさせていただいていた。

西谷会長 これはせっかく調査していただいて貴重な写真記録を取っておられるので、調査報告書でもいいし、あるいは冊子としてきちっと刊行された方がよいのではないかと。

井係長 はい。一応、今までも色々、歴史資料館時代に調査しているものもあるし、第 1 回目の審議会でご覧頂いた DVD もある。今回も調査させて頂いたが、もう少し複数の方に色々お話を聞いてゆくゆくはまとめられたらと思っている。

西谷会長 できれば冊子にして動画の DVD を付録としてつけて頂いて。ぜひ将来、記録を残して頂き

たいと思う。

井係長 ありがとうございます。

森委員 宮司さんが打たれる太鼓は今年からということだが、以前、区長さんが叩いていたのは手持ちの太鼓か。

井係長 小さい手持ちの太鼓である。一応、区長さんという表記を残させて頂いているが、今年は宮司さんに叩いてもらったのが、今後継続的に行われるかどうかはわからなかったので、区長さんとさせて頂いている。

森委員 感想としては、地元の取り組みがとても熱心で盛り立てて行こうという気運が見られることと、基本はしっかり守られているのでよいかと思った。

西谷会長 調査結果について他に意見等はないか。それでは、これまでの内容を踏まえての諮問書の内容の変更について。調査結果のところ、綱の長さが 42、3m と書いてあるが、この諮問書の方には約 50m と書いてある。これはどちらになるか。

井係長 これも毎年長さが変わるのかと思われる。

西谷会長 その辺りについて調査結果の方に「昨年度は 42、3m だったが、年によって多少の増減がある」という風に書いていただくとありがたい。

井係長 承知した。

西谷会長 参加される子どもや大人の人数も、年度によって増減があるのか。

井係長 はい。

西谷会長 人数もどのくらい参加されるか調査結果のところへ記載願う。それを諮問の終わりに入れるかどうかはまた別の話だが。

井係長 はい。やはり谷山区自体もそれほど大きな集落ではないので、子どもさんを集めるのは結構苦労されているようだ。

西谷会長 平成 30 年度の実績でいいので、子どもと大人がそれぞれ何人か記載願う。

井係長 承知した。

森委員 お盆なので、里帰りで来られているお孫さんなどもおられるかと。

井係長 そのようです。

森委員 集落と全く関係のないような人は入れないのか。

井係長 集落の地縁でなければいけないということはないと思われる。子どもさんが集まらないので、今のところは地縁のある方で。

井係長 はい。今は地縁のある方が主体でやられていると思う。

森委員 人が集まらず、いよいよできなくなって自治体が呼び掛けて地域全体でということもあるが、できれば今の形で続けていただければ。

井係長 承知した。

西谷会長 諮問内容については、変更点にアンダーラインを引いてあるということ。

桑田副会長 指定する理由の 2 頁に新しく加わっている内容で、「新しい要素ではあるが」というところで「綱織いの技術等を継承しており、このことも重要である」という風に書いてあるが、「織う」ということはとても大事な技術伝承だと思うが、「新しい要素ではあるが」という表記が必要なのか疑問に思ったのだが、どうか。単純にそこを消されてもよいかと思ったのだが。

森委員 「新しい要素」という表現の意味合いは、以前はカヅラでしていたということなのか。

井係長 はい。

桑田副会長 なくてもよいかと。

森委員 なくてもよいと思う。薫になってからも相当経っているので。

西谷会長 それでは他になければ、変更についてここでの内容でご承認いただいたということによいか。その上で、本件について古賀市指定の無形文化財に指定するという事によろしいか。

森委員 無形民俗文化財なのは、
井係長 無形民俗文化財だ。それと保持団体の認定も一緒に行う。
森委員 保持団体は、どちらの団体で。
井係長 谷山区になる。
西谷会長 ご承認いただいた上でのことになるが、指定する理由について最後のところの「貴重である
ことから指定候補としてあげるものである」という文言について。これは、ここの委員会で
指定すべきだということを、教育委員会の案用の文書ということでこういう表現になるのか。
井係長 はい。
西谷会長 これは教育委員会にかかるんでしょう。もちろん。
井係長 はい。教育委員会にかかった諮問を受けて、審議会で指定するという流れで、教育委員会に
あげさせていただく答申になる。
西谷会長 最後の3行目の「以上のように、重要性に鑑み」というのは「以上のような、重要性に鑑み」
でよいのでは。
井係長 はい。
西谷会長 それでは、本委員会において慎重審議していただいたところ、古賀市指定の無形民俗文化財
として指定することをご承認いただいたこととしたいと思う。ありがとうございました。
井係長 はい、ありがとうございました。
西谷会長 それでは「その他」の報告事項2件について一括して説明していただく。

3. その他

甲斐 (資料6 ページに沿って船原古墳調査について説明。)
井係長 (資料7～13 ページに沿って福岡県指定文化財「薬師如来板碑」について説明。)
西谷会長 それでは、報告事項2件一括して、まず市内の文化財調査について船原古墳をご説明してい
ただいたが、6頁の資料についてご質問等あれば発言願う。
ここの資料館の入館者数のカウントはどのようにされているのか。
杉村館長 一応、入館時に受付をしている。されない方もいるので係員が見ている。
西谷会長 センサーではなく。
杉村館長 目視している。
西谷会長 パネル展などはどれくらい参加者がいたか。
杉村館長 パネル展だけに来られるわけではないので、把握は難しい。
西谷会長 アクロスや遠賀信用金庫では。
杉村館長 そこは全くカウントしていない。
西谷会長 講演会は出席者数がわかると思うので、参加者の人数を書いてもらえると。
井係長 承知した。館内での催し物については、先ほど館長が申したようにカウントはしているが、
あとはうちの職員が常駐でそのスペースにいるわけではないので、何人観られているかとい
うのはわかりかねる。ただ、歴史資料館のパネル展と講演会が何人かというのはわかるので
そこは記すようにする。申し訳ありませんでした。
西谷会長 ちなみに昨年5月の自然史歴史講座はどれくらい参加されたのか。
川原係長 50人弱程度だったかと。
西谷会長 せっかく貴重なお話なので、より多くの方に聞いていただきたい。
それから、今年度まもなく概要報告書が出るということだが、これは欲しい方がたくさんい
るかと思うので、個人的に欲しいという方への対応は考えていただけるのか。
井係長 現状では考えていない。
西谷会長 個人には無償配布はしないということで。

- 井係長 PDFは作る予定である。それをインターネットであげるにしてもデータ量が多くなるのでどういう風に使うかはまだ考えていないが、PDFデータで残して今後の活用は考えていきたいと思っている。
- 西谷会長 馬冑のパンフレット作製をされるということだが、船原古墳の遺物については韓国の研究者が非常に興味を持っていると思うのだが、外国人の来館者についてはどうか。韓国の学者などが資料館の見学に来られることは。
- 杉村館長 資料館の方には来られていない。
- 甲斐 韓国の方からはたまに研究者の方から問い合わせがあったり、奈良文化財研究所などの機関の方がこちらへ同伴で連れて来られて説明をされたり、県や国の機関からこちらの方に回ってくることはあるが、一般の人はまだこちらの方に来ることはない。
- 西谷会長 パンフレットの外国語版について、英語・中国語・韓国語があるわけで、全部作るのは大変だろうが、文化庁、特に今の宮田長官が多言語対応をするように積極的に思っておられる。宗像市や福津市の場合は、三か国語のパンフレットを作って入り口のところに置いているが。そこまでいなくても、最も来館の可能性が高い韓国語のパンフレットがあってもよいのではないかと。私たちが外国に行ったときでも、日本語のちょっとしたものがあるとうれしいし、ツアーで行くと喜ばれる。今、資料館のパンフレットはすべて日本語だけなのか。
- 杉村館長 はい。
- 西谷会長 英語版くらいはあってもよいかと。2、3日前に関西の和泉に行ったのだが、JRでも次はどこというのが三か国語表示で出てくる。英語、中国語、あの辺は特に観光があるから利用者が多いのだろうが、ずいぶんと外国語表示が定着してきた。福岡市の地下鉄も同様だ。もう一つの薬師如来板碑の保存修理については如何か。
- 森委員 この銘文ははっきり読めるのか。阿弥陀如来像板碑と薬師如来板碑がよく似ているということで例示が挙げてあるが。阿弥陀の方は彫り手が「長命」となっていて、薬師の方は「長弁」となっているが似ている字である。はっきりとこういう風に読めるのか、どうなのか。
- 井係長 阿弥陀如来像板碑の方は摩滅が進んでいて、像容が美しくてきれいに見えていたものなので拓本の需要が結構高い時期があってそういうのもあるのだろうが、今では結構彫りが薄くなってははっきり見えるのかということが見えない。阿弥陀如来像板碑に書いている「長命」の「命」という字も現在読めるのかということ、読みがたい。薬師如来板碑については今ではほとんど見えない状態である。
- 森委員 板碑の岩質は何なのか。
- 井係長 玄武岩だったかと思う。
- 森委員 花崗岩は大気の影響で非常にとろける。私が調べ始めたころに見えていたのが今では見えない状態になってしまったものもたくさんある。ここでは、似た字だったのでもしかしたら同じ人だったのではと少し思った。
- 井係長 県の指定文化財では「長命」という風には書いてあるが、違う本を読むと「命」ではなく違う読みをしている方もいる。現在では全くわからないという状態である。
- 森委員 残念である。剥落を止めるというのはどういう風にされるのか。
- 井係長 とりあえず、剥落をこれ以上進まないようにするためには、現在、覆屋の周辺環境について簡単にモニタリングをしている。この像に影響を与えているのは日射が一番大きいと思われるので、日光がどのような角度で入ってきているかを観ている。これを元に、壁と軒のようなものを作り足してあまり日射が強く入らない角度のものを造るべきかと思っている。本体自体についてはどうするのかということではあるのだが。
- 森委員 お堂というか、覆屋についてはこのコンクリートのままで補強する程度なのか。
- 井係長 ここが難しいところで、間口が非常に狭く新たな建築ができない地域になっているため解体

工事もできないし、解体工事ができたとしても新たに新築工事ができないという土地なので、この建物自体を補強する工事しか選択肢がなかった。

- 森委員 扉はつけるのか。
- 井係長 日射が一番悪いので、そこの構造については検討している。
- 今橋委員 覆屋はいつ頃作られたのか。
- 井係長 覆屋自体ははっきりとはわからないが、昭和 50 年代だと思われる。
- 今橋委員 比較的新しいのですね。
- 井係長 阿弥陀如来像板碑のところも同じ作りなので同じ位の時期だと思われるが、あちらは木立の中にあるせいか全然傷んでいない。
- 今橋委員 そうすると 50 年代までは下のコンクリートの土台もなくて、板碑があった。写真で見ると後ろに木があるようだ。
- 井係長 はい。阿弥陀如来像板碑は昔の写真があり、それは木立の中にある。
- 今橋委員 薬師如来板碑もやはり木立の中か。
- 井係長 薬師如来板碑の方は覆屋に入る前の写真を見つけることはできなかった。真偽のほどはわからないが、地元の方に聞くとこの像自体はもう少し高いところにあったそうである。もう少し高いところにあったのが宅地造成等で、少し前の方に持ってきたという話もある。前に持ってきたときにあまり良くないことがあったらしく、ここから動かさないでほしいということ言われた。そのため、はじめは解体と新築を考えており、解体するときこの像自体が危なくなるので、どこかに少し避難させるという話もあったが、それだけはやめてこの場でどうにかしてほしいというお話だったので、この場でどうにかするしかないということになっている。
- 今橋委員 もともとは流れ着いたということですね。
- 井係長 言い伝えではそういう話である。
- 西谷会長 横田さんご専門ですが、現地でのご指導など頂いているのか。
- 横田委員 昔は見えていたが、最近は現地を見ていないので。
- 桑田副会長 これは管理団体というのは結局筵内地区の方がしてあるということ。お祀りも筵内地区の方がしているのか。どこかのお寺が管理をしているということはないわけですね。
- 井係長 ないようである。管理しているのは筵内区の方だ。
- 桑田副会長 土地所有も。
- 井係長 土地所有は違う。土地は官地、財務省である。
- 桑田副会長 それで古賀市の土地利用の関係で覆屋を新しくすることが難しいということなのか。
- 井係長 財務省は利用する分については関係がないが、その土地に続く通路が今は存在しない会社である。工事をするにはその道を使わなければならないが、その道の入り口が狭いのと、その会社がなく、後継会社が今のところわからない。
- 桑田副会長 お参りはその道を通して、筵内区の方が管理をしているのか。
- 井係長 はい。おそらく筵内区の方たちがお参りをするために作ってもらった通路であつたらうと思われる。
- 桑田副会長 気になったのだが、周りのところはブロックで積んであり、鉄筋等が入っていないのか。
- 桑田副会長 その辺のことについて、周りの覆屋は地震などに関する建築基準でいうと完全に保存ができないような建て方なので、そちらも問題になってくるのではないかと思うのだが。
- 井係長 一番いいのは解体なのだが、解体すると新築ができないという状態である。
- 桑田副会長 筵内区の薬師如来を信仰して守ってある方というのは少ないのか。よく地区によってはお堂の周りで教室をしたり、みんなで管理をしたりというような地区もあるが、そういう感じではないのか。

井係長 そのような感じはなく、少数だと思われる。

桑田副会長 そうすると、なおさらしくいかと。

森委員 地元の方が全体でされているのであれば、今まで野ざらしだったのが立派なお堂が建ったようなところもあるのだが。この覆屋は本当に危ない。熊野神社の阿弥陀如来像を見たときに「えっ、このようなものに入れて」と思ったのだが。

桑田副会長 今のところは改変など色々難しいので、覆屋についてはとりあえずということではできないということなのですね。

森委員 これは地元の方のご要望でされているのか。

井係長 いえ、これは地元の方にお守りしている人も少ないということもあって、地元の方は覆屋があのような状態になっていることを知らなかった。多分お守りしている人も像しか見ていないのだろうと。亀裂が入っているので板碑の管理をされていると思われる方にもあたっているが、そちらからもあまり返答がない状態で、筵内区の方が自分たちでどうにかするという感じではない。

桑田副会長 動かすとなたりにあうというのは、本当に何人かの方がそういう風に言っているだけで、他の方は別に言われていないのでは。

井係長 いえ、堂は壊したら建てられないので建てられる場所に移動させてもらえないかということを一応選択肢の一つとしてお話して、それを区の会で諮ってくださいというお願いはした。そうしたら、やはり移さない方がよかろうと。

桑田副会長 すると、筵内区の総意はそういうことになるのか。

井係長 総意はとりあえず動かさずにその場所であるということであった。補強すればどうにかなるのではないかという意見があったので、一応補強でという話になった。

桑田副会長 難しいですね。

井係長 一応青写真としては、元々一緒にあったのだろうから熊野神社と一緒に安置ということではというお話をしたのだが、移すとあまり良くないようだから移さない方がいいという意見が強かったようである。

西谷会長 板碑の保存のためには自然条件が重要であり、日射の影響も大きいのだが、雨は大丈夫か。

井係長 雨はおそらく入っていないと思われる。ただ、横殴りの雨だと入ってくるかと思われる。

西谷会長 板碑なので風の影響も大きいと思う。森先生がおっしゃったように扉についても考えていいのではないかと思うのだが。ガラス張りにして外からも見えるようにして。少しその辺について考えられたらどうだろうか。扉をつけて逆に温度が上がるというようなことがあると、それは問題になるが。

井係長 周りがコンクリートのブロックで固められており、日中はどれくらいになるのか、一番暑い時期は観ていない。

西谷会長 県の九州歴史資料館の保存科学からのご指導は。

井係長 一応、相談はしている。

森委員 お堂はやはり手作り感がすごくある。

井係長 どこが建てたかはよくわからなかったが、多分古賀町が当時建てたのではないかと思われる。

西谷会長 それでは色々難しい事情があるようだが、慎重に対応していただけたらと思う。では、以上で議事、報告事項と審議を終了する。

4. 閉会の言葉